

平成27年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月9日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東  
 コード番号 3697 URL http://www.shiftinc.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)丹下 大  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役CFO (氏名)福元 啓介 (TEL)03(6809)1165  
 四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

1. 平成27年8月期第1四半期の連結業績(平成26年9月1日～平成27年8月31日) (百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第1四半期	658	—	85	—	78	—	50	—
26年8月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年8月期第1四半期 53百万円(—%) 26年8月期第1四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第1四半期	19.64	17.03
26年8月期第1四半期	—	—

(注) 1. 平成26年8月期第1四半期においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、平成26年8月期第1四半期の数値及び平成27年8月期第1四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。

2. 当社株式は、平成26年11月13日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。平成27年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から平成27年8月期第1四半期連結累計期間の期末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第1四半期	1,624	1,239	76.3
26年8月期	1,530	1,056	69.0

(参考) 自己資本 27年8月期第1四半期 1,239百万円 26年8月期 1,056百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年8月期	—	—	—	—	—
27年8月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,371	—	118	—	111	—	76	—	28.34
通期	3,043	41.5	293	136.2	285	129.6	190	27.3	68.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

- 新規 — 社(社名)、除外 — 社(社名)  
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年8月期1Q	2,761,600株	26年8月期	2,513,600株
27年8月期1Q	—株	26年8月期	—株
27年8月期1Q	2,575,018株	26年8月期1Q	—株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
4. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種経済政策及び日銀による金融緩和を背景に企業収益や雇用環境が改善するなど、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れリスクなど、依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

当社グループの関連するソフトウェア市場では、ソフトウェア開発会社がより品質の高いソフトウェアをより効率的に開発することを求められようになっております。また、一方で優秀な開発エンジニアの採用が難しくなっており、開発会社は自社のエンジニアを開発に専念させ、検証業務をアウトソースする傾向にあり、この傾向は引き続き拡大していくものと見込んでおります。

こうした経営環境の下、当社では独自の方法論に基づく高品質なソフトウェアテストサービスを展開し、着実に顧客基盤を拡大してまいりました。

以上のような取り組みの結果、ソフトウェアテスト事業が好調に推移し、当第1四半期連結累計期間の売上高は658,678千円となりました。また、前期に採用した人材の育成や事業の収益責任をより明確にする組織体制の整備を進めた結果、案件単位での収益率が向上し営業利益は85,635千円となりました。一方、株式上場に関連した費用が発生したことにより経常利益は78,794千円、四半期純利益は50,564千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①ソフトウェアテスト事業

ソフトウェアテスト事業では、ソフトウェア開発の各工程において顧客企業のソフトウェア品質の向上に資するソリューションを提供しております。

##### (i)コンサルティングサービス

主としてソフトウェア開発の上流工程において、ソフトウェアテスト体制導入支援、テスト戦略・計画立案支援、テスト推進支援、テスト設計支援などのコンサルティングサービスを提供しております。

当第1四半期連結累計期間においては、前連結会計年度において採用した人材の成長、活躍などが寄与し、受託ソフトウェア開発企業や金融機関に対するサービスが順調に拡大いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間のソフトウェアテスト事業のコンサルティングサービスの売上高は223,688千円となりました。

##### (ii)ソリューションサービス

ソフトウェアテストでは、テスト計画やテスト設計を通じて膨大なテストケースが作成され、これを実行するデバッグ工程に移行しますが、当社グループではこれをソリューションサービスとして受託して提供しております。当社グループでは独自に開発したCATシステムにより生産性を追求したソリューションサービスを提供しており、低価格高品質を実現しております。

当第1四半期連結累計期間においては、エンタープライズ向け、ゲーム向けの各市場においてソリューションサービスが順調に拡大したほか、テスト自動化スクリプト作成などのサービスも拡大いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間のソフトウェアテスト事業のソリューションサービスの売上高は414,114千円となりました。

##### (iii)ヒンシツプラットフォームサービス

当社グループではコンサルティングサービスやソリューションサービスを通じ、幅広い業種業態におけるソフトウェアやその品質に関するナレッジが蓄積いたします。当社グループはそうした蓄積されたナレッジやデータを分析し顧客に有用な情報として提供したり、不具合の発生を予見したり、ソフトウェアテストに関するノウハウを教育サービスとして提供したりしております。

当第1四半期連結累計期間においては、プロジェクトにおける不具合発生実績や開発状況を元に、システムに偏在する不具合のばらつきを予想し、効果的なテスト手法等を提案する品質分析サービスが順調に受注できたほか、教育サービスであるヒンシツ大学についても、有償・無償あわせて開催数を増加したほか、ソフトウェアテスト業界の著名人を招聘して講演いただくなど、そのブランド向上にも注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間のソフトウェアテスト事業のヒンシツプラットフォームサービスの売上高は20,876千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ93,872千円増加し、1,624,557千円となりました。これは主に、現金及び預金が76,017千円、たな卸資産が18,197千円増加したことによるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計につきましては、前連結会計年度末と比べ90,002千円減少し、384,653千円となりました。これは主に、未払法人税等71,630千円、賞与引当金が12,114千円減少したことによるものであります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ183,875千円増加し、1,239,904千円となりました。これは主に新規上場による公募増資を実施したこと等により資本金の増加が65,000千円、資本剰余金の増加が65,000千円あったこと、また四半期純利益50,564千円の計上があったことによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期の業績につきましては、好調な受注環境を反映して、売上高が堅調に推移する中、前期に採用した人員の育成が進んだことに伴い、効率的なサービス提供が可能となり、営業利益については予想を大きく上回る結果となりました。また、上場関連費用として見込んでいた営業外費用が当初予定より低く抑えられたこともあり、経常利益、四半期純利益ともに予想を大きく上回る結果となりました。

当第2四半期につきましても、業績は予想を上回って好調に推移しており、営業利益、経常利益、四半期純利益について、大幅に当初見込みを上回る見通しとなりました。

通期業績予想につきましても、当第1四半期の実績および足元の業績動向を踏まえ予想値を上方修正いたします。

なお、当第1四半期(累計)の好調な業績は、前期に採用した人員の育成が着実に進んだことが主な理由に挙げられますが、来期以降の着実な成長に向けては、当期下期の採用活動をより加速させ、人材が早期に成長する仕組みを一層整備していくことが必要と考えております。そのために下期においては人材採用や育成、組織活性化にかかる投資活動を優先させて実施してまいります。これを受けて通期業績予想の修正につきましては、第2四半期累計期間業績予想の修正幅よりも低い水準としております。

業績予想数値の修正内容は以下のとおりです。

## 【第2四半期 累計期間連結業績】

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	営業利益率
前回発表予想(A)	1,297	84	65	39	6.5%
<b>今回発表予想(B)</b>	<b>1,371</b>	<b>118</b>	<b>111</b>	<b>76</b>	<b>8.6%</b>
増減額(B-A)	74	34	45	36	+2.1%
増減率(%)	5.8%	40.5%	68.9%	92.7%	

## 【通期 累計期間連結業績】

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	営業利益率
前回発表予想(A)	2,969	284	265	162	9.6%
<b>今回発表予想(B)</b>	<b>3,043</b>	<b>293</b>	<b>285</b>	<b>190</b>	<b>9.6%</b>
増減額(B-A)	74	9	20	28	-
増減率(%)	2.5%	3.2%	7.7%	17.3%	

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	903,130	979,147
売掛金	262,348	261,308
たな卸資産	3,338	21,535
その他	65,250	71,744
貸倒引当金	△1,611	△1,615
流動資産合計	1,232,455	1,332,120
固定資産		
有形固定資産	133,012	128,585
無形固定資産	59,827	61,541
投資その他の資産	105,389	102,309
固定資産合計	298,230	292,436
資産合計	1,530,685	1,624,557
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	53,549	41,957
1年内返済予定の長期借入金	10,920	10,920
未払費用	145,020	166,137
未払法人税等	104,883	33,253
賞与引当金	42,386	30,272
その他	104,565	91,245
流動負債合計	461,325	373,785
固定負債		
長期借入金	13,040	10,520
その他	290	347
固定負債合計	13,330	10,867
負債合計	474,655	384,653
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	452,950	517,950
資本剰余金	437,950	502,950
利益剰余金	163,875	214,440
株主資本合計	1,054,775	1,235,340
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,254	4,563
その他の包括利益累計額合計	1,254	4,563
純資産合計	1,056,029	1,239,904
負債純資産合計	1,530,685	1,624,557

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成26年11月30日)
売上高	658,678
売上原価	417,798
売上総利益	240,880
販売費及び一般管理費	155,244
営業利益	85,635
営業外収益	
受取利息	56
為替差益	336
その他	204
営業外収益合計	598
営業外費用	
支払利息	43
株式交付費	5,205
上場関連費用	2,189
営業外費用合計	7,439
経常利益	78,794
特別利益	
子会社株式売却益	318
特別利益合計	318
税金等調整前四半期純利益	79,113
法人税等	28,549
少数株主損益調整前四半期純利益	50,564
四半期純利益	50,564

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第1四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成26年11月30日)	
少数株主損益調整前四半期純利益	50,564
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	3,309
その他の包括利益合計	3,309
四半期包括利益	53,874
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	53,874
少数株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日)

当社は平成26年10月8日及び平成26年10月23日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結会計期間において有償一般募集による新株式の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ59,800千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日)

前連結会計年度におけるScentee事業の譲渡、及び当第1四半期連結会計期間における株式会社アドバゲーミングの全株式譲渡に伴い、当社はソフトウェアテスト事業のみの単一セグメントとなりました。これによりセグメント情報の記載を省略しております。